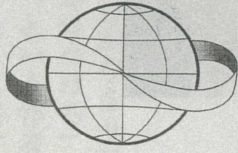


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第37号
(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
Tel&Fax 042-395-9788

謹賀新年

資源価格は上がってきたが

各種再生資源物の市中相場が、輸出価格につられて徐々に修正され、鉄や銅などのスクラップ類は何十年ぶりの好況を博している。古紙類も上がってきたが、国内価格はまだ回収・流通コストの得られる価格には達していない。数年前までは逆有償で処理料を払っていたペットボトルやトレイなども、貴重な資源となつて高値で買い取る業者が出てきた。廃プラスチック類も分別次第では有料で売れるようになっていた。しかし、行政が負担している回収コストは、通常kgあたりペットボトルで六百円・スチール缶六五円アルミ缶一五〇円以上も掛かっている。古紙類も行政が回収すれば二〇円以上掛かってしまうと云う。つまり、資源価格が少しぐらい値上がりしたとしても、その前に多額の税金で回収している事実を忘れてはならない。回収後の分別作業やプレス梱包作業そして需要先までの搬送費をコストに加えたら、まだまだ売却価格では賄えない大変な出血出荷をしている物が多い。

平成に入ってバブル経済が崩壊し、多摩地区を中心にゴミステーションを利用した古紙古繊維の行政回収が始まった。東京都二三区も東京ルール1による古紙の行政回収を平成九年より始めた。長期に亘る資源物全般の価格暴落で資源物のごみ化防止が目的だった。

回収業界は行政回収の実施に当たって、回収コストを負担して貰えれば全地域の回収作業が可能として委託を要望したが、資源ごみの収集だとして行政の直接回収か、一廃業者の仕事になった所が多い。

古紙・古繊維・鉄屑類・びんカレットなどは、専ら物(専ら再生資源として取り扱われるものは、廃棄物処理法から除外する)であり相場に左右されて廃棄物や資源物に変化するものではない筈だ。しかし前述したように、実際問題として回収コストがかかり、ごみ化する以前に清掃コストで賄わざるを得ないとして行政回収の実施となった。

なお組合は、地元市の回収作業を、行政が回収するコストの半額以下で委託実施してきた。

先般中野区で行政回収の中止が発表され話題になった。報道されない区独特の諸事情があり一概には論じられないが、長年行政回収し

てきた地区を集団回収に切り替えるにはそれなりの背景と大変な準備が必要になる。古紙相場は、低迷期間の方がはるかに多い過去の推移もある。再び相場が急変した時には受け皿が無くなる事態にもなりかねない。貴重なリサイクル施設やノーハウを持つ地元業者、そして地域を熟知した回収員を失うことの無いよう御願いたい。

近年廃棄物処理法下で各種リサイクル法が施行され、それらの収集から処理まで国の管理下になり、許認可が必要になってきた。

容器包装類や廃家電・廃自動車などの処理も、以前は我々資源回収業者の仕事だったが、資源価格の暴落とプラスチック素材の多用化でごみ処理代がかさみ不採算となり、撤退せざるを得なかった。

しかし、地域に密着し本来の事業としていた回収業者が、その地域での収集作業は実施することが可能で、地域回収ネットを有効に利用し低コストできめ細かい作業が可能となることを強く主張したい。そして現法律やルールで括られたリサイクル事業が、生産者の販売拡大に利用され、必ずしも発生抑制や環境負荷の軽減には繋がっていないとの実態もさらに追求しなければならない。(T・K)



常松裕志

三多摩医療生協 理事長

塀の中の俳句会

直言拝聴

今年納めの府中刑務所俳句クラブは、十二月八日になっていきます。おそらく、今日六日中には、その句稿が教育部厚生課の担当職員の方から、拙宅にファックスされてきます。その月によって少しづつ違いはありますが、五〇〇六〇句送られてきます。その中から、「これは良いな」という作品をあらかじめ選びます。選句といえます。句稿に、三回は眼を通します。ファックスされてきた日に一回。俳句クラブの開かれる日の朝、もう一回。その合間、ないしは刑務所に入ってからも一回。できるだけ「ひろし選」にしてあげたいからです。

あるいは、逆に、盗作句が紛れこんでいることもありますから、念を入れるという意味もあります。ある時など高浜虚子の「春風や闘志抱きて丘に立つ」という有名な句が出されてきたりもしましたから。

句会のありさま

「それでは、俳句クラブを始めましょう。あらためてご挨拶いたします。みなさんおはようございます。(全出席者から大きな声で「おはようございます」と返ってきます)今朝は寒かったですね。霜で、

野原や鳥が真つ白でした。刑務所の中は、暖房がないそうですから朝は本当に寒いでしょうね。どうぞ風邪をひかないように気をつけてください。これまでは一時間でしたが、十月からは四五分に短縮されてしまったので時間に余裕がありません。早速始めましょう。いつものように三句選。選び終わった人は手を上げてください。今日はじめての人がいますね。みなさん一人ひとりに配られている句稿の中で、君が『この句が好きだな、この句が良いな』と思う句を三つ選んでみてください。」

府中刑務所の俳句クラブは、こんな風にして始まります。手の上がった人を「はい 君どうぞ」と指名します。指名された受刑者は、句稿に印刷された俳句作品の上に、ついでに番号を、たとえば「五番、二一番、三〇番」というふうにして読み上げます。みんなが選句している間に、私はホワイトボードに、その番号を書いておきます。そして読み上げられた番号の下に正チャン印をつけていきます。句稿には、おおむね三〇句くらいの作品が印刷されています。投句できるのは、ひとり一句。選句する場合は、自分の句以外、つまり仲間の句を選ぶことになっています。

受刑者の投票が終わると、次は私の投票です。私の場合は、良い句であれば何句でも投票します。数に制限はありません。「投票が終わりましたね。それでは、表彰です。今日のトップ賞は、十三点の〇〇〇さん。はい、立ってください。それではみなさん、〇〇〇さんに大きな拍手。今日の第二位は、□□□さん。□□□さんに大きな拍手。こんなふう

に第三位まで表彰します。表彰は、もう二つあります。その日の作品中、私の目から見て一番の出来栄の作品を「今日の一句」として表彰します。

トップ賞と同じ句の時もありますが、おおむね別の句です。選んだ三句が、全て私と同じ句であった人もみんなで拍手して表彰します。

俳句の上達には、選句が一番なのです。それもありますが、八百長防止にも役立っています。「何番が自分の句。頼むよ」などと事前運動が盛んだった時期があったのです。

表彰された受刑者は、実に素直に満面の笑みを浮かべて喜びます。誇らしげでもあります。

こんな俳句会を午前中に、二組約六〇人とやっています。

指のない俳人たち

府中刑務所の受刑者に毎月一回、俳句の手ほどきをしに通うようになって、二〇年になります。義理のある俳句のえらい先生に頼まれ、やむなく引き受けたのでした。府中刑務所は、重犯者つまり何れも罪を重ねた受刑者ばかりの刑務所です。ですから、ヤクザ、覚せい剤の常習者、すり・かっぱらい、性犯罪の常習者などの受刑者が多いのです。

初めて手ほどきに刑務所の中に入った時、十人ほどの人のほとんどが刺青していたり、指が無くなっていたりしているのに、すぐに気がつき「冗談じゃないよ。もう来月からは来るものか」と思ったものです。

ところが、ある時期からは全く気持が変わりました。再資協のみなさんと親しくさせていただくようになったのは代議士時代ですが、実は、あの時期にも刑務所にはそと通っていたのでした。

塀の中の名句

「夏風呂や七十の首浮かびをり」「天井の蚊に雑巾をぶつつける」この二句は「しげる」という作者の作品です。刑務所では、入浴す

るにも笛の合図で、一斉に浸かったり出たりです。七十人が同時に首まで湯に浸かっている風景が、始めの句です。刑務所には、冷房も暖房も、蚊帳もありません。憎つき蚊が、昼の内、天井に張り付いています。その蚊めがけて、雑巾を投げつけているというのが二句目です。どちらの句も、少し滑稽ですね。作者は、そういう滑稽な自分を見つめています。自分をこんなふうに見つめる作者ならば、もう二度と刑務所に戻って行くことはないはずですよ。

他にも、この「しげる」さんのような作品がどんどん作られるようになりまして。いくつかを紹介しましょう。

冬の蠅埃まみれに果てあたり (小政)

あの時ともこの世ともなく日向ぼこ (本所深川)

辞書をひくただそれだけの夜長かな (恋瀬川)

弱音にはまだふれず居る初日記 (栄翁)

霜柱崩れて伸びし塀の丈 (菫伸)

日向ぼこそれぞれ座る位置のあり (浜つ子)

水漬のこれが自慢の息子なり (赤ひげ)

かけ声の「始め」で浸かる初湯かな (山桜子)

俳句作法

俳句はたった十七文字の世界一短い詩です。そのため自分の感動した景色なり事件なりを、読む人の脳裏にありのまま、はっきりと甦らせるように作ります。これを客観写生といい、俳句作法の基本です。俳句は、川柳や短歌のような抒情詩ではなく、いわば叙景詩なのです。紹介した十句は、それぞれよく写生されています。

ところで、これらの俳句は景色なり事件なりを写生しているように、結局は、作者自身を写生することになっていることにも、気づいていただけるでしょうか。

「凍え切る刑務所で、水漬をだらしなく流している作者」「日が射してきて、霜柱も融け、凍えも緩んだものの、ここは刑務所であることを改めて思い知っている作者」などが見えてきます。これは俳句の特性です。

「人に褒められたり、表彰されたりしたことはなかった」と告白する受刑者たちが、それを励みに俳句の道に入ってきます。そして俳句の特性によって、自分自身の作品を通して、自分自身を客観的



府中刑務所全景

新年の抱負

理事長 紺野武郎

昨年は、業界の全国組織「日資連」の会長を拝命し、本年は全国の組織拡充の年と位置付けています。また、(社)東京都リサイクル事業協会の重責も頂いており、また、パワー全開で奔走の年となりそうです。

本組合では、昨年五月より実施しました「こんなものにならない」調査は、市民の皆様の望外なご支援を頂きその方向性が見えてきました。

3Rの最も重要なリデュース(発生抑制)の部分を実践に追求して行かなければ、持続可能な循環社会実現は不可能です。

今年も世界中にアンテナを張り足元を見据えて「3Rを正しく推し進める調査隊」は粉骨努力いたします。

総務委員長・萩原貞雄

組合設立より、十四年目の新春を無事に迎えました事を謹んでお慶び申し上げます。

組合設立十三年目の昨年は、(社)東京都リサイクル事業協会の設立、当組合の紺野理事長の日資連会長への就任など、当組合に

とってリサイクル業界関係の大きな出来事がありました。

当組合は、本年も、以前に取得した官公需適格組合の資格の下、昨年引続き、市や市民により確実に信頼されるような委託業務の遂行を目指して、頑張つて行きたいと思っております。

財務委員長 古川敏雄

昨年中は、皆様には財務に御理解・御協力頂きましてありがとうございました。

謹賀新年

今年も、皆様の御協力で組合一層の繁栄を御願ひ致します。

また、当組合としては、昨年引続き、経費の削減、業務の合理化等の内部充実を図ると共に、各種リサイクル施設の見学や講習会等を行い、組合員のリサイクルや会社経営に関する知識・技術の向上に努めるべく、財務担当として尽力して行きたいと思っております。

業務委員長 小畑和夫

組合も設立十四年目に入ります。組合事業も設立当初は全国のリサ

イクルセンターの魁として、小平・柳泉園の業務に励み、また当時、リサイクルのどきどき古紙や古布の行政回収業務や販売業務など厳しい状況に直面しながらやってきました。

こういった経験を生かし、本年も公的事業と自覚し業務に励んで行きますので、どうぞ宜しく御願ひいたします。

広報委員長 吉浦高志

私共リサイクル業界も、中国と

いう巨大市場の出現により大きく変化しようとしている。

各地域で行われている行政回収や、集団回収を、先を考えない現在の実情だけで判断しようとしている動きがある。

外需に頼った未体験ゾーンにあるリサイクル業界が、これからどうなっていくのかいち早く感知して勉強し、読者の皆様にお知らせしたい。

福利厚生委員長 藤野祐子

今、考えて見ると、平成十三年

平林金属(株)工場視察記

(リサイクルステージ玉島およびリサイクルファーム御津)

○六年一〇月一三日、岡山県岡山市の平林金属(株)創立五〇周年記念式典にお招きを頂き、さらに翌日同社の工場を案内して頂いた。

なお平林久一社長は、長年におたり日資連の副会長などの要職を歴任され、現在は相談役としてご指導を頂いている。

1. リサイクルステージ玉島

国際港湾水島港に岡山県がすずめてきた「玉島ハーバーアイランド」は、国際コンテナターミナルを有する船舶輸送には最適な環境、その一面に工場敷地面積一萬坪の『リサイクルステージ玉島』があった。

廃自動車のシュレッダー処理工場、一時間で二五t(自動車七〇台分)の鉄製品を処理できると云う。オートメ化した一環処理工場。鉄・非鉄類はもろろんプラスチックその他のダスト類もほぼ完全に分別処理し製品化していた。

2. リサイクルファーム御津

岡山市御津高津の山間地に広がる御津工業団地内に八千坪余りの敷地面積を有する工場で、家電四品目とOA機器類の処理をして

(社) 東リ協会

エコタウン見学会

(〇六年十二月四日)

1. バイオエナジー社(食品廃棄物バイオガス発電施設)

本施設は、都が臨海部に推進したスーパーエコタウン事業で、四八〇㎡の所有地を払い下げて大手廃棄物業者など四社の出資で建設し、食品リサイクル法に基づいて回収した食品残渣の処理工場だ。設備は三菱重工が担当し総ステンス製のハイテク設備だった。

原理は食品残渣からメタンガスを発酵させ、それを燃料として発電機を稼働させるものだ。

処理能力は日糧一〇tだが現状三〇t程度、残渣の受け入れは

いた。玉島工場とは一転して、ほとんどが海戦術の手作業による解体処理をしていた。一つ一つ形態が違いプラスチック類から貴重な特殊金属まで厳しく選別し再利用にまわしているとのことだった。季節によって入荷量にかなりの差があり、作業員や設備の配置には苦慮していた。



バイオエナジー社

kg三五円前後頂き、売電は発生電力の六〇%(一四〇〇万円/年)を見込んでいたという。

採算の面ではまだまだとのことだったが、モデル事業として国から三〇〇億以上の補助金が出ているとのことなるほどと感じた。

〔視察所見〕

三工場とも、リサイクル法に基づいて国の認可を得た優秀な設備を備えており、社員教育も徹底していて礼儀正しく、整理整頓された場内は見事だった。

しかし廃家電やOA機器の解体は、昭和五〇年代まで我々回収業者が一つ一つ手作業で行っていた仕事そのもので、金属屑の暴落とプラスチック部品の多様化でやむなく放棄した経緯がある。

また自動車を含めたこれらの収集作業も、以前はすべてわが業界の仕事だったが、法律が出来た途

九月の理事就任から、今日に至るまで夢中で努めて来たように思います。皆様に助けられ、地に足がつかなかった期間もありました。理事会は私にとって大切な勉強の場です。

リサイクルの大切さを大勢の方に御理解頂き、また、業界の向上を願って頑張ります

集団回収委員長 土井健一郎

昨年、五月に集団回収委員長に任命されました、土井健一郎です。昨年の活動は、ヴィーナス通信を各団体に配布した事に留まりましたが、本年は、集団回収を行う事で、リサイクル活動だけではなく、地域の交流、防犯にも役立つ事を、アピールして行きたいと思っております。

青年部長・藤野理広

無事に年も明け、日本の経済不況もどん底からやや立ち直りつつあるようです。

バブル期と、その後の破綻ぶりを経験してきた日本人として、好景気に浮かれ、道徳・倫理を忘れるような事はもうあってはならないことでしょう。

一つ一つのモノを大切にするといい美徳を持ち続け、毎日を通して行きたいと思っております。今年も、皆様にとつていい年でありませうに。

端に許認可業者しか参入できなくなつたのもおかしな話だ。

尚、製造者にリサイクルが義務付けられても、長年処理を任せられて来た既存の業界にも活動の場を頂きたい。日資連は回収業界の認定制度を設定し、業者の社会的責任の向上を計っている。

そう言えば、自動車リサイクル法や家電リサイクル法が施行された時期は、鉄や非鉄金属のスクラップ相場が最低だったところで、廃プラスチック類なども多額の処理費を支払っていた。しかし今は、鉄や非鉄金属のスクラップに空前の値がついており、廃プラスチック類も有価で取引されるようになってる。

消費者から徴収するリサイクル料は、法律施行時に設定されたままであり、その差額はどうなっているのだろうか。

バイオエナジー発電施設も未来産業のモデル事業としてみれば必要なものかもしれないが、単なるごみ焼却発電や生ごみの飼料化・肥料化施設と比較してどのような利点があるだろうか。

国と動脈産業主導のリサイクルとなつたシステムや施設に、全国の大多数の同業者の想いを重ねて複雑な思いで見学をした。(紺野)



小平市エコフェスティバル

五月以来、組合で実施している「こんなものいらない」アンケート調査を各市の環境イベントで行った。

会場にはそれまでに集計した一位から二〇位までの結果をコンパネ一枚に大きく貼りだし展示した。バインダーにアンケート用紙とボールペンをセットして来場者に記入を求めた。

組合のブースの前を通る市民に用紙を渡してアンケートの協力を要請する。多くの市民は非常に興味を示し快く応じていた。

「こんなものいらない」物と、いきなり問われても、とっさには思いつかない。用紙を渡しながら、毎日の普通の生活の中で、ただ捨てるだけで、ほんとに無駄だと感じてる物の一つでも二つでもあれ

ばそれを書いて頂きたいのですが、と趣旨を説明する。「あくさういう物ネ、在る在る」と書き始める人。

「そーねー、エート」と考え込んでしまう人には、レジ袋や食品トレイなどと、例を挙げると「そーいえぼそーだわねー」と次々と思いつくのは書き始める。展示パネルを見ながら「うんうんいらないわね」とうなずく人。パネルを見ながら沢山書き込む人。一人二人とパネルとアンケート用紙を見比べながら顔を上下している姿を目に留めると、たちまちワツと集まり用意したバインダーが不足して机で書いてもらったり順番待ちという盛況ぶりであった。

知り合いどうして「ダンナもいらないワ」家の収入源だからまだ



清瀬市市民祭

要るワ」などと冗談が飛び交い終始和やかな雰囲気だった。

「昔はねー、いろんな物が計り売りでね、無駄に買うこともなかった、衣類だって兄弟同士で融通したり、最後は雑巾にして使ったのに、いまはなんでも捨ててしまうし無駄がおおいわねー」と、今の使い捨て時代を嘆く高齢の方の話について聞き入ってしまう。

多くの方々とアンケートを通し、会話しながら、ほとんどの人が各人それぞれ日常生活で、もったいない、ほんとに無駄な物が多いと感じていることが分かった。

お年寄りから若い方まで幅広い年齢層のアンケートが得られた。各会場の様々な展示や催し、体験コーナー、フリーマーケットで賑わう場で地味なアンケートに感じてもらえるだろうか。少々不安な気持ちだが先立っていたが、呼びかけると多くの方が気さくに積極的に協力して頂いたことは予想外でした。皆様に感謝いたします。

アンケート調査を行なった会場は次のとおり。

小平市は昨年までのリサイクルフェスティバルから「エコフェスティバル」に名称が変更になり九月九日に行われた。

東村山市は「環境リサイクルフェア」が九月一〇日に行われた。

清瀬市では市民祭りで清瀬市環境部の一角を借りて参加した。

東久留米市は「消費生活展」が十二月二日・三日に行われ、「くるめコンシューマーズ」団体と協力してアンケート調査を実施した。

今回の各会場では、さらなるゴミ減量、省エネ、スローライフの薦めなどをテーマにした環境全般を考えるエコロジーの内容に重点がおかれていた。

組合ではこれからも市民の集まりに積極的に参加してアンケート調査やリサイクルの情報を交換して行きたいと思えます。是非お声を掛けてください。



東久留米市消費生活展

「こんな物いらない」アンケート各市の環境展で実施 多くの市民が高い関心で積極的に参加



東村山市環境リサイクルフェア

こんなものいらないアンケート調査BEST20

(平成18年12月15日現在)

順位	項目	票数
第1位	レジ袋	517
第2位	ダイレクトメール	459
第3位	食品用トレイ類(白色・色付など)	457
第4位	二重三重の食品包装材	452
第5位	新聞の折込や郵便ポストに投函されるチラシ	363
第6位	たばこ	336
第7位	クリーニング屋のハンガー	294
第8位	洗濯洗剤の中のスプーン	269
第9位	電話帳	235
第10位	割りばし	210
第11位	弁当・刺身パック・寿司パック等に入っている飾り物・敷き物・調味料	197
第12位	トイレトペーパーの芯	194
第13位	パソコンなどの分厚い説明書	153
第14位	缶ビールをいれるマルチパック	118
第15位	ペットボトル	116
第16位	自動販売機	110
第17位	ビニール傘	93
第18位	紙コップや紙皿類	59
第19位	酒や清涼飲料水などの紙パック	50
第19位	新聞古紙入れ整理袋	50

その他21位以下には次のような物がランキングされています。

贈答品などの包装紙 弁当・寿司・刺身用のパック 野菜のビニール包装、靴を買った時の箱、商品に付いている景品、2千円札、お酒、純パルプのトイレトペーパー、携帯電話、クリーニングの袋、駅等で配るチラシ、雨の日の傘や新聞等を入れるビニール袋、発泡スチロール、雑誌類の付録、合成洗剤、化粧品のプラスチックの箱、レシート、本の一冊ずつのカバー、ホテルや宿のタオル類や歯ブラシ類、プラスチックの卵パック、ティッシュペーパーの箱に付いているビニール、サランラップ、コンビニエンスストア、洋服の中にある台紙(Yシャツ・ポロシャツ等)、食品添加物、ペットボトルに付いてくるストロー、通販のカatalog、タンス、タッパー、新聞の夕刊、学校の成績表、カップラーメンのフィルム、など

平成18年12月15日までに約1,500人程の市民の皆様から、5,000票余のアンケートを頂いた。5,000票余のアンケート用紙に投票された品目の総数は、約327種類の品目になっている。<レジ袋1枚10g。まず10gの減量から始めよう！>

東南アジアの文化と リサイクル事情に触れた旅

東資協タイ視察旅行に参加して

昨年十一月十一日から十四日まで、東資協主催のタイ視察旅行に当組合から五名が参加した。

成田から約七時間、ほんの一月前に開港したばかりのスワンナプーム空港に到着。

現地の気温は摂氏三四度、時差は日本時間より二時間遅れである。空港の周りは高速道路が開通した以外はまだ開発中で、現在空港連絡のモノレールの工事が進められていた。

高速を走る車はトヨタ製が非常に多く国内の車の八〇%を日本車が占めていて、バイクはホンダが多いと、ガイドさんが説明してくれた。

こと、バンコクの市内観光。八月に起こったクーデターへの心配は、現地では他人事のように、まったくもって平穩であった。



ワット・プラケオ

三日目はタイの古紙事情視察で、

一七八三年に建立されたタイ王室の菩提寺であるワット・プラケオ(エメラルド寺院)、三島由紀夫の小説『暁の寺』の舞台となったワット・アルン、涅槃の大仏で有名なワット・ポーを回った。

中国と天竺の中間であることを感じる建築様式や、金装飾、細かな彫り彫刻には感嘆するばかりだった。



ミット・ペット・カセム社

バンコク郊外の古紙ヤードと製紙メーカーを視察した。

まず、古紙ヤード『ミット・ペト・カセム社』に伺った。市内には三〇箇所程ヤードがあり、そのうち一〇箇所を手がける会社だ。

古紙の種類は、新聞、段ボール、オフィスミックス(Aグレード)、ミックスで、一日の集荷量は、百四十トンくらいである。

営業は、朝八時〜夜五時まで、休日は日曜日、敷地は約千坪、倉庫が約八百坪ほどあり、高さ十メートルで、なかなか立派なものだった。

ベラーが三機あったが、どれも小型なので、アームでつかんで投入する方式を取っていた。

また、クランプがなく、クレーンで吊ったベール品をフォークリ

フトで運搬していた。

やはり、中の作業は二〇人ほどいる人手に頼るところがまだ多いようだ。

集荷方法は集荷場(建場)で一度選別されたものをヤードに持ち込むシステムだ。

バンコクでは一般家庭からの資源回収システムが確立していないこともあって、事業系の段ボールとオフィス古紙が多かった。

段ボールには下ボールが混じってはいるが、少量である。

新聞は新聞だけ、オフィス古紙は書類だけ、その他の紙はミックスとなる。

様々な紙の混じることの多い日本の古紙と比べ、納入されていたオフィス古紙や、段ボールのきれいさには驚かされた。

この問屋では、ドイツから安く仕入れた古紙を選別して、販売もしている。

買値が高いので、メーカーへの販売状況を質問すると、雨季が終わったので価格が上がってきているらしい。

雨季は水分があるので、価格が下がるとの事。

古紙の買値は段ボールがキロ約一五円ということで、うらやましい限りだ。

【参加メンバーより一言】

今回の研修では、品質に対する考え方で大変勉強になった。中国に輸出する前は、分別を声高にして訴えてきた。選別も厳しく行ってきた。しかし、中国への輸出が増えれば増えるほど、選別が甘くなってきた。

中国はこれから先も品質より価格優先か、もしくはタイや日本のように品質を重視するようになるか、勉強しなければならない。

(吉浦高志)

結構厳しい日程でしたが楽しい視察旅行でした。

今回企画していただいた新井理事長始め東資協の関係各位と現地でお会いして頂いた異谷さん、この場をお借りしてお礼申し上げます。

(小畑和夫)

タイというのは日本人にとって歴史的にも文化的にも親近感を感じる国だ。

今後とも観光や視察だけでなく、古紙輸出事業というビジネスを通じて交流していけたらと思う。

(青年部 紺野琢生)

	買入価格	一日の集荷量
新聞	5.7 パーツ	10 トン
段ボール	5 パーツ	50 トン
オフィス古紙	8.2 パーツ	50 トン
ミックス	3.3 パーツ	30 トン

(1 パーツは約3円)



ミット・ペット・カセム社にて

次に、バンコクから車で二時間ほどの郊外にある THAI PAPER MILL (タイ・ペーパーミル) 製紙会社に伺った。ここは原紙からケースまで一貫生産を行っている。日産三百五十トンで、抄紙機は三台ある。

フアクトリーマネージャーの CHUNSAK (チュンサン) 氏に、工場案内をしてもらった。中国系の男性だが、横浜で育ったそう、日本語がとても上手だ



プレス品の開梱機

この会社では、環境問題には気を使っているらしく、排水設備に対する2006年の環境への貢献により、社長が Asean Energy Award2006 (アセアンエネルギーアワード) でゴールドメダルももらうほどの会社である。

それだけに品質には厳しく、納入されている古紙は選別がゆきとどいている様に見えた。



タイ・ペーパー・ミル

輸入している古紙の中で、日本品は少量で、ヨーロッパ品が多い。日本品はビニールなどのゴミが多いが、原料購入意欲は旺盛である。日本製の機械を使っているのも、日本品を使用するには適しており、歩留りがよいらしい。

品質と価格が折り合えば現金先払いでも良いから原料が欲しいというお話もあり、今後東資協の古紙輸出事業の新展開の可能性も垣間見えた。



トウク・トウク

持ち込む問屋に対する警告の意味も兼ねて、プレスした古紙を一瞬にして開梱する機械を使って、品質チェックを行っている。タイ製紙メーカー全部ではないだろうが、日本のメーカーより厳しい気がした。

職場体験学習を受入れて

東村山四中、小平三中の生徒が来組

七月に東村山市立第四中学校、一〇月には小平市立第二中学校から職場体験学習の生徒の受け入れを行いました。

朝の点呼、朝礼に始まり、回収作業の助手として、ヤードでの選別作業員として、中学生に実際の仕事を体験しながら古紙のリサイクルについて勉強していただきました。



ヤードでの作業の様子

『先日の職場体験では大変お世話になりました。四日間という短い間でしたが、僕にとつて、とても貴重な体験となりました。最も貴重な体験になったのは、逆の立場から資源ごみを見れたことです。普段は何気なく捨てている紙が回収されてからどうなるのかということや、袋に入ったままのものは処理する側としては少し面倒であることなど、普段は見ることのない世界を見ることが出来、とても勉強になりました。お手伝いというような形でも少しは社会や地球環境の役に立ったのかなと思うとともに嬉しく思いました。これからは、この体験を通して学んだことを日常生活に役立てていきたいと思えます。四日間お世話していただき本当にありがとうございました。これからも地球環境のために頑張ってください。』

参加した生徒の皆様から御礼のお手紙を頂きましたので、代表して一名分をそのまま掲載させていただきます。

良い経験をさせて頂きました。中には、『誰も希望しそうでないから』とか、『ホントはパン屋さんに行きたかった』なんて正直に告白してくれる生徒さんいますが、どんな仕事でも『はたらく』ということの大変さと大切さ、そして喜びを少しでも感じてくれれば良いと思えます。

また、職場体験でお世話させていただいた生徒の皆さんと地域の行事で再会したり、会社に訪ねてきてくれたりすることもあります。将来、私たちの業界に入ってきてくれるようなこともあれば、なお嬉しいことです。



社員と生徒さんと

今後、地域貢献、世代間交流のために、積極的に受け入れを行っていききたいと思います。
(青年部 紺野)

物も人も技術も海外へ

わが国の再生資源の輸出货量が、年々増加している。古紙などの価格も国内価格を大きく引き離して高値の買い付けを展開している。資源物だけではない。スポーツ選手や学者・技術者など超一流の若手人材も技術や頭脳とともに、海外に流出している。

再生資源は、生産物ではなく発生物であるだけに景気や内外の需給の影響も大きく受けるだろう。しかしこの十数年間、資源物の国内価格は、余りにも低く押さえ込まれていたようで、単なる需給の市場原理で片付けてよいのか検証の必要があると思う。

古紙は、長期低迷の打開策に古紙業者自ら出血輸出を続け、新たな流通ルートを開き上げた経過がある。紙製品のコスト削減を、安易に古紙値下げに依存してきたツケが海外流出につながったのでは？ 製紙メーカーは、古紙を一円上げると二百億円かかると嘆くが、松坂のお値段はと聞き返したくなる。それにしても先進国の中では最も少資源国であり少子化も深刻な我が国が、資源や人材の輸出国になつてしまふのは深刻な問題だ。国内で活躍の場を拡充してほしい。

コラム

最新 エネルギーマター事情

最近、原油高を理由にあらゆる商品の値上げが聞かれるようになってきた。我々に身近なところとしてはトイレットペーパーやガス料金、ガソリンや軽油価格の値上げはテレビや新聞紙面に大いに賑わせた。日本という国は悲しいかな資源を持たない国だ。この古紙業界もガソリン価格の高騰は直接大きな影響をもたらしてくる。そんな中、ガソリンに変わるエネルギーとして最近いくつかのものが大きく取り上げられている。自動車に限定すれば、電気モーターとの併用の「ハイブリッドエンジン」なるものが実用化され大きく取り沙汰されてきている。貨物自動車でも最近ハイブリッドエンジンを搭載しているものも市販されているようだ。但し、車輛本体価格がまだまだ高額な為、身近な物とは呼びづらいのが現状だ。世界的に見ると「ハイブリッドカー」よりも、もっと実用化が進んでいる車があるのをご存知だろうか？「バイオエタノール車」と呼ばれる自動車は南米を中心に広く実用化を進めら

れている。サトウキビやトウモロコシなどの植物を使って作られるエタノール(エチルアルコール)を燃料にする自動車のことである。今この新型燃料が注目され始めているのだ。なぜならエタノールはCO2の排出が少ないため環境にも優しい上、価格もガソリンの約半分位とされているからだ。エタノール先進国といわれるブラジルではこのサトウキビで走る車、エタノール車が街を走る乗用車二〇〇万台うち十五%の三〇〇万台にもものぼるといわれている。広大な土地を持つ南米の国「ブラジル」実は一九七〇年代前半のオイルショックを契機にエネルギー政策を転換していた。国が全てのガソリンスタンドにバイオエタノールの販売を義務付けしています。つまり石油(原油)に頼らないエネルギー政策を実践し始めている。今、ブラジルのガソリンスタンドはガソリンとバイオエタノールの二つを利用者が選んで購入できるようにになっている。実はアメリカやヨーロッパでもバイオエタノールの需要が高まっており、相次いで自国での製造工場建設が始まっている上、ブラジルは世界的な輸地球温暖化を防ぐため国際協約

「京都議定書」が発効された。CO2の排出削減目標が決められたのである。世界二位くらいの石油消費国にして六〇〇万台もの自動車保有する国「日本」燃料電池車や電気自動車の技術開発に力を入れてはいるもの普及にはまだ時間がかかりそうだ。そこで既存の自動車を使いながらCO2を減らす事の出来る燃料として「バイオエタノール」が脚光を浴び始めている。しかし普及への大きな問題点もある。国内では「バイオエタノール」を生産するところ無いというのだ。

海外からの輸出に頼るといふことでは石油となら代わりはなくなる。そこで最近、「アルコールの会社だからアルコールで地球に貢献したい」という解り易い理由で某ビール会社が国産の安いバイオエタノールの生産実験を沖縄で進めているという。日本でバイオエタノール燃料は普及していくのだろうか？
(福田雄二)

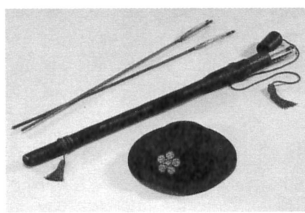
紙の筒 (紙管・紙のチカラ)

平らな紙が丸められて「力」を増す。紙ならではの加工・印刷のしやすさと丸めることよって生み出される「強さ」によって、さまざまな用途で活躍する「紙管」は、ロール型商品の芯材としてまかれるモノを中から支え、容器や型枠として外から中身を守る。

建設現場でも活躍する環境にもやさしい素材としての「紙管」に注目し、その特殊な製法と用途特性に、「紙のチカラ」を発見してみたい。一般的に弱いと思われている紙が筒状を形成する事により生み出す力、そして形状としての魅力が発揮されているパッケージには、いろいろな物がある。トイレットロールの芯、ラップの芯、これらの紙管はそれほど強度を必要としない。しかし、ガムテープ等のテープ類は巻きが大きくなればなる程、しっかりとした紙管が使われる。(芯として使われている)又、容器として、チップスター、帽子やポスター、表彰状、ボールなど丸でなくては収まりにくいものは、この形状しかない。外側が化粧紙で巻かれていて、見ただけでは紙管かどうか分からない。主役は中味で、衝撃やホコリから守っている。真円は紙であっても強度が高く、軽さも重要なポイント。紙管がいつ頃から日本に入ってきた、使われるようになったかはわからないが、繊維産業との関わりがある。明治時代の糸巻き芯は鉄

や木でできていた。大正時代にアメリカからミュール紙管と呼ばれるものが入ってきた。先の細さが鉛筆大くらいの円錐状になった、厚さ1ミリくらいの紙管だった。その後パラレル紙管(筒状のもの)もでき、木綿のミシン糸に利用された。又、初期のパラレル紙管は、螺旋状に紙を巻いていく紙管ではなく、平巻きであった。

つまり巻くものによって、紙の長さを決め、切つて丸めたものだった。昭和に入つて、ブリキ缶であったインキ容器を紙に変えて製造、その後、薬品、織物、箔、菓子類の容器など紙管製造は発展した。(原口利和)



弓道の矢を入れる紙の筒(紙管製品)

行事・行動

【九月】

- 七日：東資協理事会
- 九日：小平市リサイクル祭り
- 一〇日：関資連総会(越後湯沢)
：東村山市リサイクル祭り

- 一日：定例理事会
：中央会総会
 - 二日：東リ協会(都議会請願)
 - 六日：日資連・理事会
 - 八日：東北資連・福島大会
 - 九日：(社)東リ協会・理事会
 - 二〇日：東久留米市廃棄物減量審
 - 二六日：小平RC安全会議
 - 二八日：古紙C業務委員会
：青年部会議
- 【一〇月】
- 八日：清瀬市産業祭り
 - 一〇日：東資協理事会
 - 一日：定例理事会
 - 三日：平林金属(株)視察(岡山)
：小平RC安全会議
 - 七日：古紙Cセミナー発明会館
(社)東リ協会・理事会
 - 九日：東久留米市廃棄物減量審
中央会全国大会・渋谷
 - 二〇日：三R推進協セミナー
 - 二三日：東村山市廃棄物減量審
 - 二四日：小平三中職場体験学習
 - 二六日：小平市 廃棄物減量審
 - 二八日：視察旅行・山形県
 - 三一日：青年部会議
- 【十一月】
- 八日：東資協理事会・八王子
 - 一〇日：定例理事会
 - 一三日：小平RC安全会議
 - 一六日：東久留米市廃棄物減量審
 - 一七日：学習セミナー(労務)

- 一八日：日資連理事会
 - 二〇日：広報委員会
 - 二一日：(社)東リ協会・理事会
 - 二九日：古紙C業務委員会
：全国中央会五〇周年記念
：青年部会議
- 【十二月】
- 二日：関資連理事会
：組合忘年会
 - 三日：東久留米市消費生活展
 - 四日：都Sエコタウン視察
 - 六日：学習セミナー2(労務)
 - 七日：(社)東リ協会・事業対策委
 - 八日：東資協理事会
 - 一日：定例理事会
 - 二日：広報委員会
：小平RC安全会議
 - 四日：小平市 廃棄物減量審
 - 五日：財務委員会
 - 一六日：東京エコプロダクト
 - 一八日：東久留米市廃棄物減量審
 - 一九日：(社)東リ協会・理事会

環境川柳

◎ごみ減量

カラスも下がった
血糖値

◎飾灯で

街路樹災難
クルシミマス
(改修業者)

編集後記

常松裕志様、「直言拝聴」に御寄稿ありがとうございます。
心暖まる俳句会の様子に感動致しました。

タイ視察によせて、感心した事が幾つかある。

まずスワンナブーム空港の大きさだ。

成田空港の三倍とは聞いたが、とてもきれいで大きい。

アジアのハブ空港だそうだが、街に出て、行き交う車の綺麗な

こと。
ピカピカに磨いていて、とても大事にしている。

観光バスも運転席を綺麗に飾っていた。

寺院もとても綺麗であった。

同じ宗教熱心な国でも、インドとは大分違うようだ。

乗用車一台が家一件分に値すると聞いて、それで大事にするのかとも思ったが、中国でも同じように高いのに全然大事にしてい

ない。物を綺麗に扱う、大切にすると

いう国民性があるのではと思う。

韓国や中国の古紙から比べると、タイの古紙は綺麗だ。

よく選別されている。
(吉浦高志)